

夏休みが明けて2学期がスタートし、さっそく早朝から児童・生徒の登校を見守る地域のみなさんの姿と子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。

容赦ない猛暑が続いた夏休み期間でしたが、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員のみなさんには、各小中学校での第2回学校運営協議会や教育ミニ集会の開催にご尽力いただくと同時に、市全体での研修会で多くを学んでいただけたと思います。

今回は、それらの取り組みから参考となる事例をピックアップして紹介しています。

【委員全員が学びを深めた学校運営協議会－湖北台中学校区】

湖北台中学校区の第2回学校運営協議会は、6月の管理職研修会で教育委員会が講師をお願いした牛久第一中学校元校長の本橋和久先生を改めて学校にお招きし、委員全員で学校運営協議会委員の役割について学びを深めました。その後、中学校区の課題とそれについて何ができるかを熟議しましたが、委員一人一人の意識も高まって、より有意義な協議会となったように感じられました。

<学校を内側から見て外側から支える学校運営協議会委員>

6月の管理職研修会でも「学校運営協議会委員には『学校を内側からのまなざしで見てもらおう』』という話があり、これについて参加者から大きな反響があったことを「スクラムNo.10」でも紹介しました。湖北台中学校区は委員全体で共有できましたが、他の学校では管理職研修会参加者だけでなくすべての委員にその意味が伝わっているでしょうか？伝達の間を設けた市の研修会にも参加できなかった学校は、ぜひ伝達講習の間を設けて研修の成果を還元していただければと思います。

目標とビジョンの共有 → 理解する難しさ → まずは内側から学校を見る
 = 授業を見て子どもの学びの様子を語り合う

他にも「協働」の意味、21世紀の学び(授業づくり)、探究している姿について、保護者や地域住民の学習参加など、御自身の経験を基にした大変に示唆に富むお話がありました。グループでの協議がとても成熟していて、コミュニティ・スクールとしての今後が楽しみというお褒めの言葉もいただきました。

また、アドバイスの一つとして『今日のような学校運営協議会であれば、学年主任等の学校運営の核となる職員の参加』があってもよいのではないかと提案もありました。



管理職や教務主任以外へのコミュニティ・スクール周知に課題があるという声が我孫子市の学校には多く聞かれます。



【小中一貫カリキュラム作成に向けて熟議－湖北中学校区ミニ集会】

今年度の重点

→小中を一貫し地域学校協働活動を取り入れた中学校区オリジナルカリキュラムの開発

上記ミッションに向け、湖北中学校区では、ここまでの各学校での取り組みや湖北・新木地区の地域性を反映したカリキュラム作成を進めています。具体的には、福祉教育をテーマとし、そこに家庭や地域がどう関わり、学校とどう協働していくかを模索しているところです。そこで、教育ミニ集会という絶好の機会を生かし、「福祉に関して学校が、家庭が、地域が連携・協働してできることとその課題」について、知恵を出し合いながら熟議しました。

学校側からミニ集会の意義や今日の会のねらい、進め方について説明があった後、若手教職員の主導でグループごとにアイスブレイクの活動、すっかり打ち解けたところで改めて額を寄せ合い、付箋と筆記具を手に真剣な表情でグループワークが進みました。

オリジナルカリキュラムの名称も含めた様々なアイデアが各グループから発表され、「みんなで創っていくカリキュラム」という言葉がピッタリで、まさに「社会(地域)に開かれた教育課程」の実現に資する取り組みであったと思います。



【夏の研修－これからの時代に求められるコミュニティ・スクール】

<✕地域学校協働+活動ではなく、◎地域学校+協働活動に>

8月6日(火)、文科省国立政策研究所から志々田まなみ先生を講師として招聘し、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、放課後子ども教室コーディネーターが一堂に会した研修会を実施しました。

まず、学校と地域の連携・協働について、「どんな活動をしているか」よりも「どう進めているか」が重要。つまり、どんな人たちとどんな関係を築いているか、立場の違いを越えて「一緒に話したい・聞きたい」と思えるメンバーとなっているかを見直し、人間関係・パートナーシップを築くことが学校運営協議会が機能するポイントになるという話。

また、「どんな活動をしているか」ではなく、「何のためにやっているか」も重要。つまり、子どもたちに先の見えないこれからの時代を生き抜く力を育むために、地域社会との良質な繋がりや信頼できる多様な大人との豊かな関わりを効果的に届けられる教育環境を創り出すことは私たち大人の使命。そして、地域社会で育つ恩恵を体感した子どもたちが、また次の世代に繋げていくという話。

どちらもコミュニティ・スクールの根幹を成す教えであり、子どもたちの教育活動支援を行うにあたって、その内容や方法ばかりに注視してしまいがちな私たちに持続可能なコミュニティ・スクールとしていくための今後の指針になりました。

他にも、学校運営協議会は、子どもの成長を真ん中に据えた教職員と地域住民との相互理解や学び、相談・協議の場という視点。それ故に「学校の授業について学校運営協議会で取り上げて熟議していますか?」「放課後の子どもたちの居場所が話題になっていますか?」等々の見直し。

教育委員会でも、上記に加えて年度末のチェックシートの効果的な活用など、学ぶことが多く、即実践に繋げていこうという意欲をもてた研修会となりました。

